

# みやぎ食と農の県民条例基本計画のH25年度実施状況とH26年度主な取組(概要版)

環境生活農林水産委員会配布資料  
平成26年8月21日  
農林水産部

資料2

## I 消費者が求める安全・安心な食料の安定供給

施策	H25年度主な施策の実施状況	主な推進指標の達成状況等	H26年度の主な取組																								
①② 環境にやさしい農畜産物の安全な確保の推進 ③ 消費者と農業者の相互理解の推進	<p>●「みやぎの環境にやさしい農産物認証・表示制度」の適正な運用による環境保全型農業の推進、農業生産工程管理（GAP）実践普及拡大支援、及び農産物の放射性物質検査等を実施した。</p>  <p>県認証農産物（米）と生産ほ場（大郷町）</p>  <p>生産者等対象GAP研修会</p>  <p>農畜産物の放射性物質検査</p>	<p>◎環境保全型農業の取組面積は、ほぼ横ばい傾向。生物多様性保全の意義など、消費者及び農業者の意識醸成に努める必要がある。</p>  <p>環境保全型農業取組面積(ha)</p> <p>◆県産農畜産物の放射性物質検査結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>検査点数</th> <th>基準値等超過点数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>野菜・果物</td> <td>3,525</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>米</td> <td>34,893</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>麦</td> <td>65</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>そば</td> <td>128</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>大豆</td> <td>1,844</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>原乳</td> <td>250</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>県産牛</td> <td>29,684</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	品目	検査点数	基準値等超過点数	野菜・果物	3,525	0	米	34,893	0	麦	65	0	そば	128	0	大豆	1,844	0	原乳	250	0	県産牛	29,684	0	<p>●GAP導入志向農場に対するコンサル指導や、GAP指導者を育成し、GAP取得農場数を拡大する。【生産工程管理推進事業】</p> <p>●畜産物の生産段階における「飼養衛生管理基準」の周知徹底及び家畜伝染病の発生予防とまん延防止を推進する。【家畜衛生対策事業、家畜伝染病予防事業】</p> <p>●農畜産物の放射性物質検査の実施と耕種的対策の徹底により、県産農産物の安全性確保に努める。【県産農林水産物放射性物質対策事業】</p> <p>●みやぎの環境にやさしい農産物認証・表示制度等を適正に運用するとともに、環境にやさしい農業生産を目指す農業者の活動支援、認証農産物等の情報発信を積極的に実施する。【環境にやさしい農業定着促進事業】</p> <p>●地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動に取り組む農業者に対し、国・市町と共同して活動支援を行う。【環境保全型農業直接支援事業】</p> <p>●食品系産業廃棄物の農業分野におけるリユース、リサイクルを進めるため、有用な資源の探索と、肥料成分として有効に活用した資材を開発する。【産業廃棄物炭化新資材開発事業】</p>
	品目	検査点数	基準値等超過点数																								
野菜・果物	3,525	0																									
米	34,893	0																									
麦	65	0																									
そば	128	0																									
大豆	1,844	0																									
原乳	250	0																									
県産牛	29,684	0																									
<p>●小中学校が行う農業体験学習支援、学校給食や飲食店・量販店等との連携及びイベント等を通じた地産地消の推進、食材王国みやぎ「伝え人」等を活用した食育の取組支援を行った。</p>  <p>子ども農業体験学習で手作り豆腐を農家と一緒に試食（大崎市）</p>  <p>みやぎまるごとフェスティバル</p>	<p>◎学校給食における地場野菜等の利用は減少傾向。調理場の統廃合により必要なロットが大きくなっていることや、下処理に手間がかかること等が課題。</p>  <p>学校給食の地場野菜等の利用品目数の割合(%)</p>	<p>●小中学校の子どもや教員の農業に対する理解や、「職業としての農業」に対する関心を高めるため、教員等指導者向けセミナーを開催し、体験学習等の取組を支援する。【子ども農業体験学習推進事業】</p> <p>●「食材王国みやぎ地産地消の日」の周知、高校生地産地消お弁当コンテストの開催、地産地消推進店との連携等、全県的な地産地消の取組を推進する。【食育・地産地消推進事業】</p> <p>●学校給食への県産野菜等の利用推進に向け、一次加工品による新たな給食素材の試作等を行うとともに、「すくすくみやぎっ子 みやぎのふるさと食材月間」を通じて、県産食材利用への普及啓蒙を図る。【学校給食における県産食材利用推進事業】</p>																									



## Ⅱ マーケットインによる競争力と個性のある農業の持続的な発展

施策	H25年度主な施策の実施状況	主な推進指標の達成状況等	H26年度の主な取組											
<p>④⑤ 競争力ある担い手の確保・育成 経営体育成の加速化</p>	<p>●アグリビジネスに取り組む経営体への専門家派遣等ビジネス展開支援や、新商品開発・販路拡大支援を行った。 ●地域農業の中核となる認定農業者・組織経営体等の経営発展支援、新規就農者の確保・育成に向けた相談会・研修等を行った。</p>	<p>◎経営・技術支援の実施により、年間販売金額1億円以上のアグリビジネス経営体数は、増加傾向。</p>	<p>●6次産業化等のアグリビジネスの取組を牽引する、マーケティング戦略を持った大規模農業経営体の育成の加速化を図る。【アグリビジネス・チャレンジ支援事業】</p>											
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>6次産業化に取り組む(有)小山牧場の「あいすむら」(栗原市)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>H25年5月に設立した(株)宮城リスタ大川(石巻市)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>農業参入した(株)みらいの人工光型植物工場(多賀城市)</p> </div> </div>	<p>アグリビジネス経営体数</p>  <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H21</td><td>H22</td><td>H23</td><td>H24</td><td>H25</td></tr> <tr><th>体数</th><td>71</td><td>77</td><td>74</td><td>80</td><td>94</td></tr> </table>	年度	H21	H22	H23	H24	H25	体数	71	77	74	80	94
年度	H21	H22	H23	H24	H25									
体数	71	77	74	80	94									
<p>◎優良な生産基盤の確保と有効活用</p>	<p>●ほ場の大区画化、水田の汎用化、園芸施設整備及び牧草地の造成改良等生産基盤の整備を実施するとともに、農地集積組織の機能強化による担い手への農地集積の推進、耕作放棄地解消に向けた研修会の開催等を行った。</p>	<p>◎水田のほ場整備(20a以上の汎用化水田)は、概ね目標通りに実施されている。</p>	<p>●農地の利用集積による経営基盤の強化を図るため、農地の大区画化・汎用化に向けたほ場整備を推進するとともに、被災農地の早期復旧を促進する。【農地整備事業、復興基盤総合整備事業】</p>											
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>整備された大区画ほ場における水田汎用利用(名取市)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>地域農業再興に向け、農用地利用改善団体に関する研修会開催(気仙沼市)</p> </div> </div>	<p>水田ほ場整備面積(ha)</p>  <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H21</td><td>H22</td><td>H23</td><td>H24</td><td>H25</td></tr> <tr><th>面積(ha)</th><td>71,620</td><td>72,022</td><td>72,284</td><td>72,583</td><td>73,127</td></tr> </table>	年度	H21	H22	H23	H24	H25	面積(ha)	71,620	72,022	72,284	72,583	73,127	<p>●農地売買支援事業、農地中間管理事業及び農地利用集積円滑化事業により担い手への農地集積を促進する。【農地売買支援事業、農地中間管理事業】</p>
年度	H21	H22	H23	H24	H25									
面積(ha)	71,620	72,022	72,284	72,583	73,127									
<p>●園芸産地等の発展のため、重点振興作物の推進に係る施設整備等の支援を行う。【園芸特産重点強化整備事業】</p>	<p>●畜産担い手経営の安定的な発展のため、飼料基盤の整備や規模拡大に伴う生産環境の整備を行う。【畜産基盤再編総合整備事業】</p>													




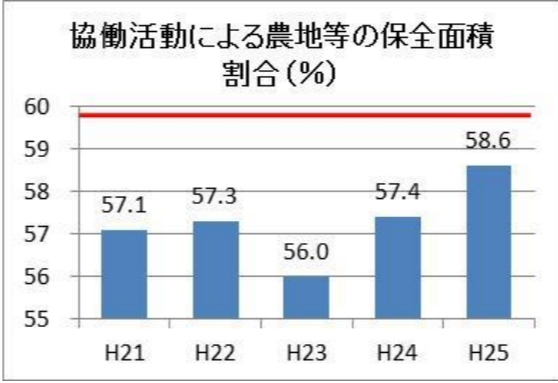
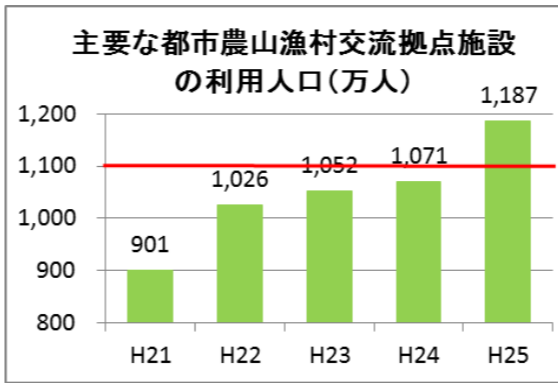


## Ⅱ マーケットインによる競争力と個性のある農業の持続的な発展



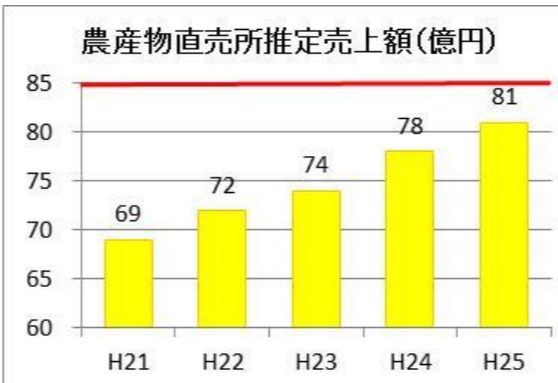
施策	H25年度主な施策の実施状況	主な推進指標の達成状況等	H26年度の主な取組
<p>⑦⑧⑨ 多園一様芸食な・材二畜王一産国ズのみ に供や対給ぎし のた強水化 田農の振興</p>	<p>●関係機関と連携し、キャンペーン等を通じて宮城米のPRを行うとともに、需要に対応した麦・大豆等の安定生産を推進した。</p> <p>●園芸重点振興品目を中心とした生産・流通・販売体制強化、近年需要が高まっている加工・業務用野菜の産地育成推進、復興に向けた園芸施設整備等の支援、県基幹種雄牛「茂洋」号を活用した「仙台牛」ブランド確立に取り組んだ。</p> <p>●商談会等を通じた県内中小食品製造業者の商品の販路拡大支援、地産地消推進店キャンペーンや「宮城ふるさとプラザ」等での県産品の販路拡大支援を行った。</p>  <p>新幹線車内誌への宮城米等広告掲載</p>  <p>巨理山元地域のいちご団地整備</p>  <p>県内食品業者と県内外バイヤーの商談会の様子</p>  <p>宮城ふるさとプラザでの県産品販売促進</p>	<p>◎水田における園芸作物の作付面積は、加工・業務用野菜を中心とした作付誘導により、前年から大きく増加。</p>  <p>◎「茂洋」号を中心とした高能力の県有牛の利用が進み、県有種雄牛産子の子牛市場上場頭数は大きく増加。</p> 	<p>●宮城米の販売力を強化するため、「宮城米マーケティング推進機構」におけるPRイベントや広報宣伝活動を実施する。【宮城米広報宣伝事業】</p> <p>●JAグループと連携した「みやぎの環境保全米」、高級志向米「プレミアムひとめぼれ みやぎ吟撰米」、新品種「東北194号」等の、実需者ニーズに対応した取組を推進する。【宮城米産地強化対策事業】</p> <p>●水田をフル活用した麦・大豆・飼料用米等の作付け拡大により、農家所得の向上と水田農業の競争力強化を図る。【直接支払推進事業、売れるみやぎの麦・大豆生産拡大事業、飼料用米生産拡大推進事業】</p> <p>●園芸の重点振興品目を中心とした生産・流通・販売体制強化や、加工・業務用野菜の生産振興により、需要に対応した競争力の高い産地育成をすすめるほか、先進的園芸経営体への先端技術導入支援を行う。【園芸振興戦略総合対策事業】</p> <p>●県有基幹種雄牛「茂洋」を活用した「仙台牛」ブランド確立と、「茂洋」の後継牛作出の各種取組を推進する。【みやぎの優良肉用牛生産振興対策支援事業】</p> <p>●食品製造業者による商品づくりから商談・販売までの各段階で生じる課題解決を総合的に支援する。【食産業「再生期」スタートダッシュプロジェクト】</p> <p>●県産食材のブランド化に取り組む生産者等への支援、首都圏での「食材王国みやぎフェア」の開催等、県産ブランド確立に向けた取組を支援する。【県産ブランド品確立支援事業】</p>
<p>⑩ 生産力と品質を高める農業技術の高度化</p>	<p>●試験研究機関における普及技術の開発、新技術実証展示ほ等を活用した生産技術の普及を行うとともに、被災地を新たな食料供給基地として再生させるため、産学官連携による大規模実証研究を実施した。</p>  <p>いちご栽培への緑色LED光利用による品質向上技術（気仙沼市）</p>  <p>キャベツ自動収穫機による収穫作業の軽労化（岩沼市）</p>	<p>◎幅広い視点からの農業技術の高度化を図るため、大学、民間企業、独立行政法人等との連携による共同研究に取り組んでいる。</p> 	<p>●生産現場の課題解決に役立てるため、試験研究機関で開発された技術を農業者へ迅速に普及させ、現地技術の高度化を図る。【県単独試験研究費、普及指導員活動費】</p> <p>●被災地を新たな食料供給基地として再生させるため、産学官連携による先端技術の大規模実証研究を継続して実施する。【食料生産地域再生のための先端技術展開事業】</p> <p>●県内産地の生産性向上と復興の加速化に向け、試験研究機関で開発された新技術を現地で実証・改良し、地域条件に適するマニュアル作成により、技術の普及定着を図る。【新技術導入広域推進事業】</p> <p>●IT技術を活用した営農指導により、高設養液栽培に移行した巨理・山元地域のいちご産地復興を支援する。【IT活用営農指導支援事業】</p>



### Ⅲ 農業・農村の多面的な機能の発揮

施策	H25年度主な施策の実施状況	主な推進指標の達成状況等	H26年度の主な取組
<p>⑪⑫ 農業・多面的機能の農村が有する地域資源の保全・管理</p>	<p>●地域住民が一体となった地域環境保全活動に対する交付金等の支援、農家レストラン等の交流拠点施設間のネットワーク組織活動の支援、「田んぼの学校」や小学校の総合学習支援等による多面的機能への県民理解醸成等に取り組んだ。</p>  <p>地域住民による環境保全活動（登米市）</p>  <p>小学校における総合学習（生き物調査）の支援（登米市）</p>  <p>H25にオープンした農家レストラン「柳生旬彩ひだまり」（仙台市）</p>	<p>◎地域住民が協働で行う農地等の保全活動は、震災で一時減少したものの、H24以降は増加している。</p>  <p>協働活動による農地等の保全面積割合(%)</p> <p>◎農林漁家レストラン、農産物直売所、農林漁家民宿等の利用人口は増加しており、都市と農村の交流が進んでいる。</p>  <p>主要な都市農山漁村交流拠点施設の利用人口(万人)</p>	<p>●農業者等が協働で行う農地や農業用水等の資源の維持・保全活動等、地域主体の取組を引き続き支援する。【多面的機能支払事業】</p> <p>●耕作放棄等による生産機能及び多面的機能の低下を防止するため、地域が協働で行う持続的な農業生産活動や定住化等に向けた取組を支援する。【中山間地域等直接支払交付金事業】</p> <p>●グリーンツーリズムアドバイザー派遣等により活動実践者を支援するとともに、グリーンツーリズム推進組織の活動支援を行う。【グリーン・ツーリズム促進支援事業】</p> <p>●震災復興に取り組む農山漁村と将来のサポーターとなりうる県内外の学生との絆づくりを支援するため、宮城県でしか体験できない「農林漁業体験+復興の手伝い」等の体験メニューを実施する地域グリーンツーリズム実践団体を支援する。【農山漁村絆づくり事業】</p> <p>●農業農村の役割及び多面的機能の効果について、県民の理解を深めるため、土地改良区及び地域の農業者とともにイベントの開催等を行う。【みやぎ田園環境教育支援事業】</p>

### Ⅳ 農村の経済的な発展と生活環境の整備

施策	H25主な施策の実施状況	主な推進指標の達成状況等	H26の主な取組
<p>⑬⑭ 連携と地域資源の活用による農村経済の活性化</p>	<p>●農産物直売施設等へのアドバイザー派遣や研修会開催による経営能力向上支援、農商工連携による新商品開発や販路開拓の支援を行った。</p> <p>●農業用施設の老朽化による災害を防止するため、ため池や用排水施設等の整備を行った。</p>  <p>あ・ら・伊達な道の駅 農産物直売所（大崎市）</p>  <p>中山間地域における農業生産基盤及び農村生活環境の総合的な整備（登米市）</p>	<p>◎農産物直売所へのアドバイザー派遣やマーケティング調査等、販売力向上支援を実施した結果、推定売上額は増加傾向。</p>  <p>農産物直売所推定売上額(億円)</p>	<p>●地域の活性化を図るため、食品製造業及び観光業をはじめとする多様な事業者との連携による、商品開発やビジネス創出に向けた取組を支援する。【みやぎの農商工連携・6次産業化支援強化事業】</p> <p>●多面的機能を有する農村と住民の生命を大規模自然災害から守るため、排水施設及びため池の整備を実施し、流域の排水条件を改善する。【溜池等整備事業】</p> <p>●農業・農村の健全な発展と県土の均衡ある発展を図るため、農業生産基盤及び集落基盤の整備を総合的に実施する。【中山間地域総合整備事業】</p>